

空手 **NETWORK**

カラテ・ネットワーク

2007
3/31 SAT.
No.13

発行/山形県空手道連盟
制作/山形県空手道連盟普及部



青森・岩手・宮城・秋田・福島・栃木・新潟県内外から
ジュニア400名が参加。熱い戦いを展開した。

平成19年2月25日(日)
県総合運動公園総合体育館

速報！第一回樹氷杯 ジュニア空手道選手権大会

大会成績

昨年に引き続き春寒の山形、壮大な蔵王山の樹氷が最も美しいこの時期にちなみで名づけられた、第二回樹氷杯ジュニア空手道選手権大会が開催されました。今回よりジュニア強化の重要性に鑑み、小学生の部を4年生以上としたところ、4年生以上としたところ、昨年よりも多くの団体から参加をいただきました。

参加した選手の中には、3月に開催される「第六回全国少年少女空手道選手権大会」や「第一回全国中学生空手道選抜大会」に出場する選手も多く、本大会が代表選手には良き調整の場となり、またその他の選手にとって、新シーズンに向け飛躍向上する土台づくりとなる大切な大会となりました。

また近県の小中学生との交流は、視野を広くし互いに切磋琢磨する中で心と技を磨き、さらに自分自身の課題や目標が明確になることがあります。大変有意義なことです。



▼組手個人(小学男子4年生)	①成海 誠也(宮城)	▼組手個人(中学女子1年生)	①国分 田香(山形)
②高橋 優裕(栃木)	②及川 愛實(岩手)	②北川 到(岩手)	③佐藤 麻美(山形)
③大高 悠偉(秋田)	③佐藤 熊谷 翔太(青森)	③大泉 泰士(山形)	④伊藤 祐也(秋田)
④森 寿鶴(岩手)	④小林 穂薰(山形)	④伊藤 勇也(秋田)	
⑤池田 寿(岩手)	⑤北川 到(岩手)	⑤佐藤 麻美(山形)	
⑥河野 美波(山形)	⑥佐藤 麻美(山形)	⑥佐藤 麻美(山形)	
⑦藤野 芳江(青森)	⑦佐藤 麻美(山形)	⑦佐藤 麻美(山形)	
⑧石井 友喜(山形)	⑧佐藤 麻美(山形)	⑧佐藤 麻美(山形)	
⑨廣飯 正樹(山形)	⑨佐藤 麻美(山形)	⑨佐藤 麻美(山形)	
⑩高橋 由衣(福島)	⑩佐藤 麻美(山形)	⑩佐藤 麻美(山形)	
⑪小林 未侑(山形)	⑪佐藤 麻美(山形)	⑪佐藤 麻美(山形)	
⑫大間々可夏(岩手)	⑫佐藤 麻美(山形)	⑫佐藤 麻美(山形)	
⑬石井 友喜(山形)	⑬佐藤 麻美(山形)	⑬佐藤 麻美(山形)	
⑭廣飯 正樹(山形)	⑭佐藤 麻美(山形)	⑭佐藤 麻美(山形)	
⑮財前 卓之(福島)	⑮佐藤 麻美(山形)	⑮佐藤 麻美(山形)	
⑯田沢 大志(山形)	⑯佐藤 麻美(山形)	⑯佐藤 麻美(山形)	
⑰藤野 太志(山形)	⑰佐藤 麻美(山形)	⑰佐藤 麻美(山形)	
⑱石井 友喜(山形)	⑱佐藤 麻美(山形)	⑱佐藤 麻美(山形)	
⑲廣飯 正樹(山形)	⑲佐藤 麻美(山形)	⑲佐藤 麻美(山形)	
⑳高橋 由衣(福島)	⑳佐藤 麻美(山形)	⑳佐藤 麻美(山形)	
㉑伊藤 菅紀(秋田)	㉑佐藤 麻美(山形)	㉑佐藤 麻美(山形)	
㉒木村 洋稀(山形)	㉒佐藤 麻美(山形)	㉒佐藤 麻美(山形)	
㉓工藤 瑞穂(宮城)	㉓佐藤 麻美(山形)	㉓佐藤 麻美(山形)	
㉔高橋 由衣(福島)	㉔佐藤 麻美(山形)	㉔佐藤 麻美(山形)	
㉕伊藤 優也(秋田)	㉕佐藤 麻美(山形)	㉕佐藤 麻美(山形)	
㉖大間々可夏(岩手)	㉖佐藤 麻美(山形)	㉖佐藤 麻美(山形)	
㉗木村 洋稀(山形)	㉗佐藤 麻美(山形)	㉗佐藤 麻美(山形)	
㉘高橋 由衣(福島)	㉘佐藤 麻美(山形)	㉘佐藤 麻美(山形)	
㉙伊藤 優也(秋田)	㉙佐藤 麻美(山形)	㉙佐藤 麻美(山形)	
㉚渡辺 奨(山形)	㉚佐藤 麻美(山形)	㉚佐藤 麻美(山形)	
㉛松本 優希(福島)	㉛佐藤 麻美(山形)	㉛佐藤 麻美(山形)	
㉜高橋 隆弥(福島)	㉜佐藤 麻美(山形)	㉜佐藤 麻美(山形)	
㉝大橋 一揮(福島)	㉝佐藤 麻美(山形)	㉝佐藤 麻美(山形)	
㉞叶内 功也(山形)	㉞佐藤 麻美(山形)	㉞佐藤 麻美(山形)	
㉟松本 功己(福島)	㉟佐藤 麻美(山形)	㉟佐藤 麻美(山形)	
㉟安達道場(山形)	㉟佐藤 麻美(山形)	㉟佐藤 麻美(山形)	

高校空手道部レポート
酒田南高等学校



「打倒！東海大山形高等学校」 目標として15年。

自らも東海大山形高等学校空手道部のOBであり、「常勝」の一員でもあつた酒田南高等学校 中村和道監督に熱い思いを聞く。

インタビュー
中村 和道監督に聞く。

● 酒田南高校の空手道部は、創部15年ということですが、創部のきっかけを教えてください。

→鶴岡にある実家が空手の道場を開いてるので小3の時から空手を始め、大学まで続けていたんです。地元に帰ってきてからの空手道の練習場所が欲しくて、高校の教員になり、まずは愛好会を創ったのがきっかけです。

● 平成18年の県高校総体では、常勝東海大山形高校を破り、団体戦で優勝されました。日頃の練習はどういうものなんですか？

→基本的に、「気持ちは、精神面」を大切にしたいと思っています。練習時間は2時間ほどですが、休みをとらずに次から次へとメニューをこなしていくので、中身が濃い練習を行つて行っています。

休みの日に練習試合なども入りますが、基本的には週に一度、気持ちの切替のためオフの日をつくつとあります。

● 21年連続優勝されている東海大山形を破りたい！というお気持ちがあつたと思いますが、いかがですか？

→自分の母校である、強豪をいつも倒してやる！…という気持ちでやつてきましたよ。それが、僕を育ってくれた恩師に対する恩返しだと思っていましたから。

● 念願の県高校総体団体優勝！その時のお気持ちとは？

→もう、みんなで喜泣しました

ています。常に限界までやつてしまつと燃え尽きてしまいますから、余裕を持つ活動で「もう少しやりたいな」という気持ちを大切にして長く続けて欲しいという気持ちですね。後は、選手たちが自主的に居残り練習などをしているのです。

練習の内容は、大学、日本一の帝京大学との交流もできているので、その練習方法を見本にして、酒南の選手たちに合った練習法に進化させてやってますね。

● 最後に、選手たちや空手を志す子供たちに贈るメッセージをお願いします。

→すばり、今年の目標は…

→完全優勝！ 団体、個人でも優勝を狙いたいです。



監督／中村 和道

県高校選手権No.1！を目指して。今、高等学校空手道部が熱い！

酒田南、常勝！東海大山形21連勝の牙城を崩す。
昨年、平成18年6月3日に開催された、第57回県高校総体男子団体組手において常勝！東海大山形高校空手道部を破り、酒田南高校空手道部が初優勝を成し遂げた。それまで東海大山形高校空手道部は21連勝。実に21年ぶりの快挙となつた。



週に二、二度は、一緒に同じメニューの練習をし、同じ苦しさや喜びを分かち合っている酒田南高等学校。同じ土俵に立ち、一緒に花ひらく。辛いこともあるとは思つけれど、3年間続けることで力になると感じて欲しい。本当に継続は力なりですからね。経験者も未経験者も監督も、監督は、今日も温かい目で選手たちを見守つていた。



監督／小笠原 博

東海大山形空手道部 小笠原監督に聞く！

13年には、国体準優勝という輝かしい成績を収め、また、平成18年には、全国高校選手権大会に30年連続出場を果たし表彰されていく。(全国で5校のみ)常に目標

選手は、小笠原先生の教え子が多い。毎年のように全国の舞台を経験している小笠原監督は、県内の高校空手のレベルについて、「力は十分ある」と思っています。ただ、精神的な弱さを感じます。精神力の強化、全国優勝を常に見据えて研鑽していくべきだと思します。

山形県の高校空手道部は、
「全国ベスト8」に入る
実力はある！ 強化部長 安達 剛



今年も6月3日に県高校総
体が開催される。今年は、チャ
レンジ精神で全国制覇を目指
こ県高交総本部に臨むと、小笠
ている。

現在、山形県内で活躍している

こじ数年、全国レベルで結果を残す選手が出ていないが、今の県高校空手道部のレベルは全国的に見て決して低

良い体験を通して大学、社会人になつても空手を続けてくれる事を心から望んでいます。

高校空手道部レポート 山形県立南陽高等学校「精一級」

「精神力を身につける」
強靭な身体と強い

南陽市は、「葡萄」といって湯の里」と呼ばれるように、吾妻、飯豊の山々に囲まれ、四季折々には多くの果物や食材が季節を感じさせてくれます。そんな自然に囲まれた南陽高校は、今年度で創立十五周年という区切りの年を迎えました。本



技能の習得が必要不可欠ですが、本校のスタイルは、攻撃を中心とした積極的な組手です。しかし、新人部員の中には文化部から門を叩く生徒もおり、初心者を全国の舞台で戦わせるには、並々ならぬ努力が必要です。地味な基本動作を何度も繰り

活はたった三年間。しかし、それをどのように過ごすかは個人で違います。でもせいかくの三年間であれば、自分の可能性にチャレンジして「悔いの残りぬ三年間だった」と言えるような高校生活にしてもらいたいと思います。山形県は優秀な指導者が沢山いらっしゃいます。高校生になつても空手道を継続し、自分の夢に向かつて突き進んでください。

校は、平成三年に赤湯園芸高校と宮内高校が合併してできた新設校です。空手道部は、自身の宮内高校時代に、山口彰氏（誠道塾代表）が何度も学校に足を運びスタートしたとお聞きしています。長年「一チ」として指導してくださった山口先生は、遠征試合を有効に使い、日頃の厳しい練習を試合結果につなげられた優れた指導者です。

現在の活動の特徴としては、「強靭な身体と、強い精神力を身につける」ことを部活動の指針とし、組手の技術が向上するよう努めています。

も困難を克服するという「友」でありながら好敵手という関係が、部員の空手道部に対する結果の深さを感じます。

南陽高校での部活動は、決して楽ではありません。しかしながらなかなか経験のできない活動に精一杯取り組むことによって普通の高校生の生活にプラスアルファの時間を過ごすことができる信じています。そして卒業後の社会では、この活動が、生徒の人間形成や性格において関わって、実生活の様々な場面で知らず知らずに役立つてくれるものと期待しております。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and a beard. He is wearing a light-colored, possibly white, button-down shirt. The background is slightly blurred, showing what might be an indoor setting.

監督／飛鳥 康弘

返したりする」とや、痛かったり嫌なことから逃げずに毎日練習に取り組むことで、強固な

高校空手部道レポート 天童高等学校

勝者にならため、
技術・体力・精神力の
三要素が大切！



監督／横田 和浩

大正九年年に大童実科高等学校として創立され現在は山形県立天童高等学校に改称し、商業科と普通科を併置して地域に密着した教育を継続してきました。そして平成十二年度より内陸地方初の総合高校となり、進取・自立・融和を教育

目標どし、一人ひとりの豊か
個性を大切にするため、進路
に応じた系列を準備し、将
の希望・進路に応じて科目選
択をして時間割を組む高校
として現在に至っております。
空手道部の歴史は、天童
校の歴史に比べれば比較的の

平成四年べにばな
国体では少年女子
個人形優勝、平成九
十年の東北高等学校
校空手道選抜大会
二連覇、平成十、十一
年東北高等学校
空手道選手権大会
女子団体組手二連
覇というすばらし
い成績を修める事
ができました。そ

幸せものだと思つ
そして指導してい
力をめきめきとつ
では東北大会優勝
で入賞するなど輝
を残す事ができる
ました。

これからも新た
かい、飽くなき努力
けて行く所存です
ご支援のほどよろ
しいします。

ております。
る部員も実
けであります。今
や全国大会
かしい成績
ようになり

して昨年度は、インターハイ連続出場（十年連続出場）を果たしておあります。



本校創設は大正九年、機械科、土木科、染織科、応用化学科の四学科の定員百名で創設され、今年度まで創設八十六年を迎えた。昭和十三年に定時制（機械科・土木科・工業化学科）が設置され、その後多くの卒業生を世に送り出しだが平成十

高校空手道部レポート 山形工業高等学校

「文武両道」が教育目標！
勉学を疎かにする者は
空手道をするに値しない。

二年度で五十一年間の幕を閉じた。

現在の設置学科は機械

システム科、電子システム科、

情報システム科、建築システム

科、環境システム科の五科で、

生徒定員は六百九十四名である。「ものづくり」の技術者と

して、日本国内はもとより世

界にまで多くの卒業

生を輩出している。

本県の工業高校の

中心校として、勉学

はもとより各工業科

の諸活動や部活動な

ど「文武両道」を教

育目標に掲げている。

また、生徒会や各科の

実習・課題研究など

において卒業人として

の「ものづくり教育」

に取り組んでいる。

山形県立山形工業

高等学校に空手道部

が創立されたのは昭

和四十七年であり、

その当時は定時制過

程での活動であった。

昭和六十二年には全

日制に愛好会が設置

され、全定通算され

ば三十年という大歴史のあ

る学校である。
学校教育における空手道と

は、空手道の武道的精神とス

ポーリング的教育活動を配慮した

活動であると言える。従つて、

ただ試合に勝てばよいといっ

るものではなく、空手道を通じて

精神と肉体を育み、将来立派

な社会人として世の中に貢献

できる生徒をいかに造るかで

ある。しかし、創立当時はなか

なかその理解が得られず、本人

の面接や保護者の承諾書を取

つて指導にあたったものである。

また、生徒の本分である勉学を

おろそかにするものは空手道

をするに値しないといこう針

で出発しているため、現在も部

員一人の学業成績も良く、進

路先として大学進学や公務員

試験に合格している者も多い。

練習場は専用の道場がないた

めに、狭い実習場を借用しながらの練習であるが、部員同勉

めの練習であるが、部員同勉

高校空手道部レポート 庄内農業高等学校



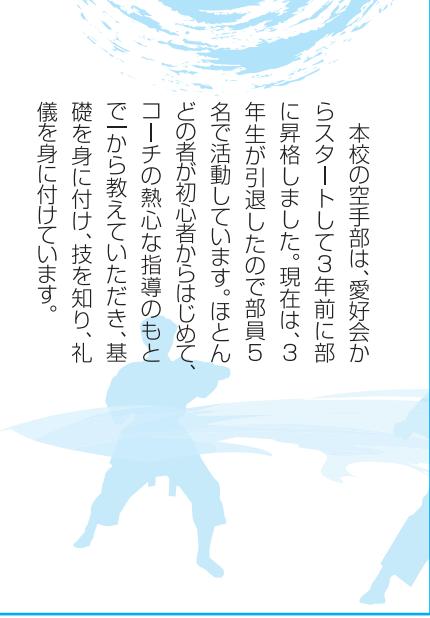
監督／今井 正朝

高校空手道部レポート 山形中央高等学校



監督／大沼 政

本校の空手部は、愛好会からスタートして3年前に部に昇格しました。現在は、3年生が引退したので部員5名で活動しています。ほとんどの者が初心者からはじめて、コーチの熱心な指導のもとで一から教えていただき、基礎を身に付け、技を知り、礼儀を身に付けています。



高校空手道部レポート 天真学園高等学校



監督／梁瀬 伸祐

本校空手道部は、平成14年に創部しました。生徒の「空手をやつてみたい」という気持ちが学校全体を動かし、発足することになりました。現在は少人数ながら、本校道場において毎日練習に励んでいます。練習はトレー

ング、縄跳び、サークル、ダッシュ、基本移動、組手の追い込み、打ち込み、カウンタ、試合制と組手練習を中心とします。練習はトレー

ング、縄跳び、サークル、ダッシュ、基本移動、組手の追

い込み、打ち込み、カウンタ、

試合制と組手練習を中心と

します。練習はトレー

ング、縄跳び、サークル、ダッシュ、基本移動、組手の追

空手あれ 談話(十)

山形県空手道連盟会長

飛鳥宗一郎

「べにばな国体」とは（一） その意義について1

あれから
15年の歳
月が流れた。「べにば
な国体」は、
私たち山
形県空手
道連盟に
とつて何
だったのか。
携わった
人たちに
は忘れ得
ない思い
出ださうが、
はじめに

第47回国民体育大会「べにばな国体」空手道競技会（以下、「べにばな国体」と略記する）

は、平成4年10月5日から三日間、天童市の山形県総合運動公園「体育館」を会場に開催された。大会初日には、畏くも天皇陛下の行幸を賜つた。『光陰矢のじ』と言うが、訪れる選手団のため万全を期

各年総会では、全役員挙げ

て目標達成に当たり、論議は
尽くしても決定事項には従う
ことを確認し、将来の発展・
強化に繋がるように願つた。

一大事業だった取り組みを、
未だ記憶に残るこの時期に、
今の選手や次世代の人たちに
語り継ぐのに好機かと思い、
今回から三年にわたって連載
したい。それも、私の任務だ
らうと稿を起ことした。

1 本県開催までの経過

昭和56年（1981年）

1月、昭和67年（昭和天皇崩御により、実際は平成の元号となる。1992年）の第47回国体の本県開催が具体化し、当時は「67国体」と呼んでいた。

同年9月、第36回滋賀県国体から空手道が正式競技と

なり、組手重量級と少年女子形に入賞し、「新種目空手道、2種目に入賞」と新聞報道された。国体の主管県が62年の第42回沖縄県で全国を一巡し、翌年の京都府から二巡回に入

った。本県は、東北最初の一巡回会場と決り、県民の関心と期待は大きく、62年11月には愛称を「べにばな国体」と決定された。

42年以降の体制では、
形に入賞し、「新種目空手道、
2種目に入賞」と新聞報道さ
れた。

化本部」と「審判部」「強化
部」が設置され、強化本部長
に理事長が就任した。

昭和60年以降の体制では、
「べにばな国体」の対策は無
効と判断し、平成2年2月總
会で特別組織「山形県
空手道連盟」を設置、
國体対策本部」を設置、
理事長を本部長とし、
次の委員会を置いた。

總務涉外委員会（委
員長・田鎖光雄）、財

4 会場地の発表と変更
5 国体対策本部の設置



技力向上委員会（委員長・飛
鳥宗一郎）、競技運営委員会
(委員長・工藤清)、財
務委員会（委
員長・佐藤
博）、競

初参加が終わって、翌年の総会で県から伝達された国体開催の概要と、県連の所掌分野を説明した。一つには県連主体で運営を担当する、二つには天皇杯・皇后杯優勝のため種目優勝を勝ち取るでした。役員一丸となり全力行動で頑張る外ないと確認された。

3 強化方針の決定

昭和58年（1983年）

優勝を目指とする強化策は、昭和58年総会に「第47回国体強化方針」を提案し、強化の大綱が承認された。翌年総会では、前年度方針を補完する具体的な事項を確認した。

①長期的・短期的な強化対策
②指導の一貫体制と指導者のレベルアップ
③底辺拡大と有力選手の掘り起こし

6 独自財源の確保
7 資料

は10年間を費やし、決して平坦な道程ではなかつた。それでも126万県民（今は120万人）の熱い声援と期待に応え、種目総合優勝と、訪れる選手団のため万全を期したいと思つた。

1月、昭和67年（昭和天皇崩御により、実際は平成の元号となる。1992年）の第47回国体の本県開催が具体化し、当時は「67国体」と呼んでいた。

ただ、過去の空手道会場は辺境の地ばかり、メイン会場地と聞いて驚いたのが実感でした。

昭和60年度総会で基金造成を

決定した。団体と役員の負担金、県内大会の参加協力金により目標額は1,000万円とした。

その後の調査から、62年には50%増額が承認された。

しかし、強化方針の見直し、競技運営の変更、物価高騰県市補助金減少などの状況変化

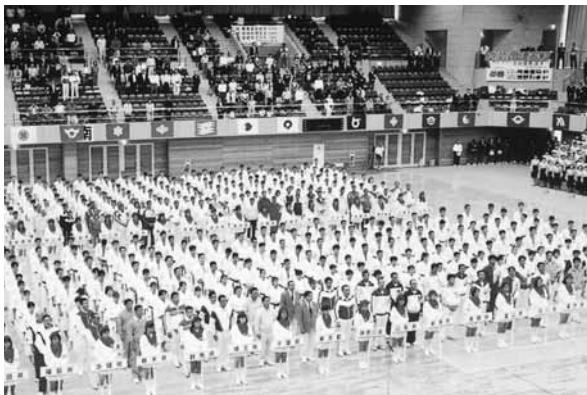
経費使用細則」を定め、用途基準を明確にして執行した。

「コーチの助言により、形選手対策が必要だと林派糸東連会宗家の林輝男先生（1920～2004）を形アドバイス

導をいただいた。他に、専任コーチとして委嘱した。

7 天皇皇后陛下の行幸

ご行幸は、8月の官報発表で初めて知った。空手道会場へのお出ましは唯一無二である。



両陛下は初日の午後2時、4,800人の観客席は通路まで人人で溢れる中で入場なされた。

その時は、少年女子形の競技中だった。暫くご観覧の後、組手特別試合が行われ、本県の斎藤対横田、瀬野対飛鳥の2組が御前試合の榮誉に浴した。

予定の30分間が過ぎても両陛下は身を乗り出されて

ご観戦。やがて立場になつた。ご観覧は、15分ほど遅れてよう

が判明し、平成2年7月臨時総会を開催し、プログラム広告獲得と新たに各団体17万円（内2万円は広告代）の負担により増額1,000万円が承認された。この行動による最終協約は、目標額を60%上回る達成となつた。度々の増額にも拘わらず「財務委員会」をはじめ各役員の真摯な取組みの成果だった。

基金は、開催前年度まで使

用しないと確認し、3年度総会では「第47回国体対策関係

11 競技運営役員の訓練

県から訓練は2年（2回）指示され、2年前は「東北総体」（8月）で、前年のリハーサル大会は「東北高校選手権大会」（6月）だった。

9 監督の選任

第36回から第46回まで監督を務めたのは、飛鳥宗一郎、工藤忠、田鎖光雄、工藤清、小笠原博、安達剛及び深瀬久男の7名。監督は、競技に対する識見が高く、強化練習に必ず参加して指導可能を条件に、強化本部で選任した。沖縄国体（昭62）で、それまで男子監督の飛鳥から安達に交代、飛鳥が女子監督。翌年の京都国体で男子・安達、女子・深瀬とし、「べにばな国体」までの一貫体制を完了した。

若林事務理事（当時、故人）が視察と指導、6月のリハ大会は専務理事、事務局長他7名の指導を受けた。役員配置は開催時の80%だった。

リハ大会後直ちに総括会議を開き、反省点を明確にした。その討論で、形点数計算、並びに総合成績のパソコン処理を決定し、プログラムを独自に開発し、初の完全パソコン化となつた。

開催年8月4日の県ジユニア大会は、国体と全く同じ種目数と選手数を配置し、最終訓練の場とした。

当初、天童市から予定されていた競技役員がゼロとなり、編成作業は4次にまで及んだ。

諸会議13回、補助員を含めたハーナル大会で、この時からビデオ撮影を導入した。更に、

翌年第44回「はまなす国体」には戦力分析も併せ視察員を派遣した。第45回は福岡県で選手強化に限つたが、本県開催前年の石川国体には競技運営全部門の主任、副主任を派遣した。

県対策本部から専任コーチ事業が提示、慎重に選定を行なった結果、日本大学監督・田邊文博氏（当時）を推薦され、平成2年4月に委嘱された。

多くの資料を蓄積し、実地訓練と強化に活用できた。

福島県（3年後開催）5名、県内117名
③競技補助員→天童高校39名、電波高校45名
④競技会補助員→天童高校72名

13 少年演武の取り組み

開催県の少年演武が恒例となつており、平成3年責任者を決定し、小学3年～中学2年生を対象に200名規模として参加を呼び掛けた。開催

年には、会場で5回の訓練を実施し、2日目の昼食休憩時に「べにばな国体」の胸マークと鉢巻を締め、眞新しい揃いの空手衣に身を包み、10分間の演武を無事終了した。最

終人数233名、指導者2名で、50年に一度の祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

50年ぶりの祭典参加の喜びを共有した。空手衣等で半額を補助した。

15 選手強化の成果

昭和56年の初参加以来開催県の総合優勝が多く、選手・指導者は日夜頑張ったのが本音で、結果として次のように総括できたのは、長期的・短期的対策が効果的に進捗した結果と思われる。

①昭和58年以降の状況だが、

初動期（56～59）、対策期（60～62）、鍛錬期（63～元）、仕上期（2～4）と、段階的に経過した。

②監督の選任、専任コーチ、形アドバイスコーチの導入など、指導の一貫体制を視野に入れ取り組んだ。

③県外遠征や他県招聘など、友好県や大学空手部との交流は有効だった。

④年次の選手構想、候補選手の複数配置、県外有望選手の確保など、選手の構成と配置は成功した。

⑤学校や職場の理解、専用練習場の確保、開催時練習場確保など、条件整備は遺漏なかった。

⑥他県選手の戦力分析は適切だつた。

⑦次回以降に詳しく述べる「最終強化24か月体制」は、適切な措置だつた。

⑧選手団の意気高揚と、全県挙げての雰囲気づくりに成功した。

（次号に続く）

決定した。団体と役員の負担金、県内大会の参加協力金により目標額は1,000万円とした。

その後の調査から、62年には50%増額が承認された。

しかし、強化方針の見直し、競技運営の変更、物価高騰県市補助金減少などの状況変化

で初めて知った。空手道会場でのお出ましは唯一無二である。

8 専任コーチ等の委嘱

体操競技（山形市スポーツセンター）と一種目だけでした。

過ぎても両陛下は身を乗り出されて身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

過ぎても両陛下は身を乗り出されて

12 開催時役員等の構成

派遣した。第45回は福岡県で選手強化に限つたが、本県開催前年の石川国体には競技運営全部門の主任、副主任を派遣した。

選手決定後、これら資料を使用し対戦相手の研究に活用した。

14 他県の戦力調査

開催1年前から、有力選手の特徴と戦力分析に取り掛かった。国体、各地区大会、全国工業団、大学、高校の大会など、情報収集やビデオ撮影などに視察者を派遣し、現地派遣できない場合は戦績表の送付を受けた。

選手決定後、これら資料を活用し対戦相手の研究に活用した。

選手決定後、これら資料を活用し対戦相手の研究に活用した。

選手決定後、これら資料を活用し対戦相手の研究に活用した。

平成18年度

大会ノックアウト



第36回県社会人選手権大会

○平成18年4月14日(日)

○山形県武道館

①山形県庁 A

②山形県庁 B

③山形県庁

④山形県庁

⑤山形県庁

⑥山形県庁

⑦山形県庁

⑧山形県庁

⑨山形県庁

⑩山形県庁

⑪山形県庁

⑫山形県庁

⑬山形県庁

第14回全国中学生大会山形県予選会

○平成18年6月4日

○山形県武道館

①新庄市立日新中学校

②鶴岡市立鶴岡第五中学校

③新庄市立鶴岡第五中学校

④新庄市立鶴岡第五中学校

⑤新庄市立鶴岡第五中学校

⑥新庄市立鶴岡第五中学校

⑦新庄市立鶴岡第五中学校

⑧新庄市立鶴岡第五中学校

⑨新庄市立鶴岡第五中学校

⑩新庄市立鶴岡第五中学校

⑪新庄市立鶴岡第五中学校

⑫新庄市立鶴岡第五中学校

⑬新庄市立鶴岡第五中学校

第9回東北中学生選手権大会

○平成18年5月14日

○宮城県武道館

①新庄市立日新中学校

②鶴岡市立鶴岡第五中学校

③新庄市立鶴岡第五中学校

④新庄市立鶴岡第五中学校

⑤新庄市立鶴岡第五中学校

⑥新庄市立鶴岡第五中学校

⑦新庄市立鶴岡第五中学校

⑧新庄市立鶴岡第五中学校

⑨新庄市立鶴岡第五中学校

⑩新庄市立鶴岡第五中学校

⑪新庄市立鶴岡第五中学校

⑫新庄市立鶴岡第五中学校

⑬新庄市立鶴岡第五中学校

第24回県ジュニア選手権大会

○平成18年7月2日

○天童市スポーツセンター

①新庄市立日新中学校

②鶴岡市立鶴岡第五中学校

③新庄市立日新中学校

④新庄市立日新中学校

⑤新庄市立日新中学校

⑥新庄市立日新中学校

⑦新庄市立日新中学校

⑧新庄市立日新中学校

⑨新庄市立日新中学校

⑩新庄市立日新中学校

⑪新庄市立日新中学校

⑫新庄市立日新中学校

⑬新庄市立日新中学校

第61回団体・第33回東北総体県予選会

○平成18年7月16日

○県総合運動公園サブアリーナ

①新庄市立日新中学校

②鶴岡市立鶴岡第五中学校

③新庄市立日新中学校

④新庄市立日新中学校

⑤新庄市立日新中学校

⑥新庄市立日新中学校

⑦新庄市立日新中学校

⑧新庄市立日新中学校

⑨新庄市立日新中学校

⑩新庄市立日新中学校

⑪新庄市立日新中学校

⑫新庄市立日新中学校

⑬新庄市立日新中学校

▼成年男子形	①加藤葵(酒田南高)
▼②大場洗志(東海大山形高)	②吉永太郎(酒田南高)
▼③吉永太郎(酒田南高)	③吉永太郎(酒田南高)
▼④小関丈文(東北工業大)	④小関丈文(東北工業大)
▼第33回東北総体空手道競技	○平成18年9月26～27日
▼○名取市民体育館	○名取市民体育館
▼少年女子個人組手	▼少年女子個人組手
▼③渡谷紗季(南陽高)	③渡谷紗季(南陽高)
▼少年男子個人組手	▼少年男子個人組手
▼①渡辺愛士(東海大山形高)	①渡辺愛士(東海大山形高)
▼成年男子(軽量級)	▼成年男子(軽量級)
▼③鈴木主洋(大洋大)	③鈴木主洋(大洋大)
▼成年男子(中量級)	▼成年男子(中量級)
▼①伊藤翔(東京農業大)	①伊藤翔(東京農業大)
▼①安達善成(山形市役所)	①安達善成(山形市役所)
▼少年女子形	▼少年女子形
▼③佐藤辰紀(酒田南高)	③佐藤辰紀(酒田南高)
▼少年男子形	▼少年男子形
▼①加藤葵(酒田南高)	①加藤葵(酒田南高)
▼成年女子形	▼成年女子形
▼①大場奈津実(やまのべ整形外科)	①大場奈津実(やまのべ整形外科)
▼成年女子団体戦	▼成年女子団体戦
▼①山形県	▼①山形県
▼少年男子団体戦	▼少年男子団体戦
▼③山形県	▼③山形県
▼成年男子団体戦	▼成年男子団体戦
▼③山形県	▼③山形県
▼第39回県空手道選手権大会	○平成18年9月17日
▼○鶴岡市朝陽武道館	○鶴岡市朝陽武道館
▼高校男子形	▼高校男子形
▼①吉永太郎(莊空館)	①吉永太郎(莊空館)
▼②大場洸志(東海大山形高)	②大場洸志(東海大山形高)
▼③小野晴貴(酒田南高)	③小野晴貴(酒田南高)
▼高校男子組手	▼高校男子組手
▼①峯田陽典(東海大山形高)	①峯田陽典(東海大山形高)
▼②浅野允玲(東海大山形高)	②浅野允玲(東海大山形高)
▼③浦花諒(天童高)	③浦花諒(天童高)
▼原田昇平(天童高)	③原田昇平(天童高)
▼高校男子団体組手	▼高校男子団体組手
▼①酒田南高校	①酒田南高校
▼②東海大山形高校	②東海大山形高校
▼③天童高校	③天童高校
▼山形県	▼山形県
▼業高校	▼業高校
▼一般男子形	▼一般男子形
▼①松永政和(長井市連盟)	①松永政和(長井市連盟)
▼②伊藤浩(天童高)	②伊藤浩(天童高)
▼③栗野舞(天童高)	③栗野舞(天童高)
▼船越正(国際松濤館)	▼船越正(国際松濤館)
▼般:高校女子形	▼般:高校女子形
▼①大場奈津美(安達道場)	①大場奈津美(安達道場)
▼②伊藤浩(天童高)	②伊藤浩(天童高)
▼③星川幸(酒田南高)	③星川幸(酒田南高)
▼有段者組手B	▼有段者組手B
▼①伊藤学(和驚会)	①伊藤学(和驚会)

▼有級者組手
①小川慎一郎(山形大学)
一般・高校女子組手
②赤羽隆樹(崇武館本部)
③前田直紀(山形大学)
④子鹿平(鶴岡支部)
⑤吉田圭介(山形大学)
⑥佐藤拓人(安達道場双葉)
⑦佐藤拓人(安達道場双葉)
⑧伊藤翔(深瀬道場)
⑨渡部恒徳(莊空館)
⑩関東里佳(天童高)
⑪洪谷紗季(南陽高)
⑫大山梓(山形大学)
⑬舟越正一(国際松濤館)
⑭佐藤義則(莊空館)
⑮男子組手
⑯男子団体組手
⑰庄空館
⑱和鷺会
⑲米沢五条
年団
①新庄市空手道スポーツ少年団
②米沢市空手道スポーツ少年団
③新庄市空手道スポーツ少年団A
④新庄市空手道スポーツ少年団B
⑤空心会空手道スポーツ少年団
⑥庄内道場空手道スポーツ少年団
⑦天童市空手道スポーツ少年団
⑧新庄市空手道スポーツ少年団
⑨余目空手道スポーツ少年団
▼男子個人形
①上野夏生(鶴岡市)
②小野晟司(天童市)
③田沢大志(新庄市)
④横田駿介(崇武館)
⑤男子個人形
①工藤彰悟(源武館)
②佐々木梢(新庄市)
③宮川葉月(寒河江)
④榮ちづる(崇武館)
⑤男子個人形
①木村貴(新庄市)
②大河原順平(川西町)
③牧野貴大(寒河江)
④中村和磨(莊空館)
⑤五年生男子組手
①五年生男子組手
②石井友壹(米沢市)
③吉田匠治(南陽市)
④佐藤拓人(安達道場双葉)
⑤五年生男子組手
⑥五年生男子組手

第17回県ジユニア選抜選手権大会
○平成18年11月12日
○南陽市民体育館メインアリーナ



第61回国民体育大会



▼組手（小学女子3年生）	①國分桃香（新庄小）
②伊藤希穂（日新小）	②飛鳥有衣（山形南小）
③古瀬未欧（鈴川小）	③竹俣咲穂（山形第七小）
④大内佑美香（金井小）	④大内佑美香（金井小）
▼組手（小学女子4年生）	⑤組手（小学女子4年生）
①星川南（浜田小）	①星川南（浜田小）
②伊藤希穂（日新小）	②伊藤希穂（日新小）
③古瀬未欧（鈴川小）	③古瀬未欧（鈴川小）
④大内佑美香（金井小）	④大内佑美香（金井小）
▼組手（小学女子5年生）	⑤組手（小学女子5年生）
①武田莉奈（鈴川小）	①武田莉奈（鈴川小）
②小林未侑（沼田小）	②小林未侑（沼田小）
③竹田麻由子（鮎貝小）	③竹田麻由子（鮎貝小）
④板垣流衣（宮内小）	④板垣流衣（宮内小）
▼組手（小学女子6年生）	⑤組手（小学女子6年生）
①遠藤沙かり（大沢小）	①遠藤沙かり（大沢小）
②渡辺葵（朝陽第二小）	②渡辺葵（朝陽第二小）
③仙台土才（本合海小）	③仙台土才（本合海小）
④今野桃（致芳小）	④今野桃（致芳小）
▼組手（中学生女子1年生）	⑤組手（中学生女子1年生）
①佐々木梓（明倫中）	①佐々木梓（新庄中）
②小林穂薫（新庄中）	②小林穂薫（新庄中）
③佐藤麻美（新庄中）	③佐藤麻美（新庄中）
④坂上愛（舟形中）	④坂上愛（舟形中）
▼組手（中学生女子2年生）	⑤組手（中学生女子2年生）
①佐々木梓（明倫中）	①佐々木梓（新庄中）
②荒川聰美（日新中）	②荒川聰美（日新中）
③佐々木香夏（山形第三中）	③佐々木香夏（山形第三中）
④大滝由佳（鶴岡第五中）	④大滝由佳（鶴岡第五中）
▼組手（中学生女子3年生）	⑤組手（中学生女子3年生）
①佐藤桂（綾南中）	①佐藤桂（綾南中）
②伊藤秀成（明倫中）	②伊藤秀成（明倫中）
③大泉泰土（日新中）	③大泉泰土（日新中）
④仙台充功（明倫中）	④仙台充功（明倫中）
⑤瀬野大将（山形第三中）	⑤瀬野大将（山形第三中）
▼組手（中学生男子2年生）	①佐藤桂（綾南中）
①伊藤雅人（舟形中）	②伊藤秀成（明倫中）
②叶内翼也（日新中）	③大泉泰土（日新中）
③加藤大貴（日新中）	④仙台充功（明倫中）
④大沼功一（中山中）	⑤瀬野大将（山形第三中）
⑤森桂太（鶴岡第五中）	①佐藤桂（綾南中）
⑥浅野圭芝（赤湯中）	②伊藤秀成（明倫中）

- 関東里佳(2回戦敗退)
▼少年男子個人組手
渡辺愛士(1回戦敗退)
少年女子組手
渋谷紗季(1回戦敗退)
成年男子個人形
伊藤翔(1回戦敗退)
少年女子個人形
伊藤渚(2回戦敗退)
伊藤渚(2回戦敗退)
伊藤渚(2回戦敗退)
伊藤渚(2回戦敗退)
- 第6回全日本少年少女選手権大会予選会
○平成19年1月14日
◎県総合運動公園サブアリーナ
- ▼形個人(小学女子1年生)
①斎藤沙希(北辰小)
②鈴木楓歌(米沢愛宕小)
③三沢季沙(藏王小)
①武田紗耶(鈴川小)
②大滝佳歩(大塚小)
①伊藤恵(日新小)
②金沢奈苗(桜田小)
①飛鳥有衣子(山形南小)
②梅津晟矢(万世小)
①荒井薫(鈴川小)
②今野裕吾(鶴岡二小)
①斎藤迹比呂(朝陽第一小)
②廣木駆(大山小)
①那須虎太郎(大塚小)
②渡辺ゆかり(大沢小)
①遠田ゆかり(大沢小)
②渡辺葵(朝陽第二小)
①斎藤迹比呂(朝陽第一小)
②廣木駆(大山小)
①荒井薫(鈴川小)
②梅津晟矢(万世小)
①飯塚弥(泉小)
②牧野貴大(寒河江小)
①組手個人(小学男子4年生)
②組手個人(小学男子4年生)
①廣飯正樹(朝陽第二小)
②佐藤賢哉(宮野浦小)
①組手個人(小学男子3年生)
②廣木駆(大山小)
①土田秀治(沼田小)
②鈴木峻太(米沢愛宕小)
①組手個人(小学男子4年生)
②組手個人(小学男子4年生)
①組手個人(小学男子5年生)
②田沢大志(崇武館新庄支部)
③河野美波(鶴岡五中スポーツ少)
①組手個人(小学男子6年生)
②佐藤友喜(米沢市空手道スポーツ少)
③廣飯正樹(庄内空手会)
①組手個人(小学女子5年生)
②小林未佑(崇武館新庄支部)
③廣飯正樹(庄内空手会)
①組手個人(小学男子6年生)
②木村洋稀(米沢市空手道スポーツ少)
③廣飯正樹(庄内空手会)
①遠田ゆかり(至道館)
②渡辺葵(庄内空手会)
③叶内史也(日新小)
①大沼選誠(寒河江中部小)
②竹田光希(大江本郷西小)
①斎藤蓮(鈴川小)
②横田駿介(桜田小)
①叶内史也(日新小)
②安部文米(米沢南部小)
③叶内史也(崇武館新庄支部)
①斎藤蓮(北辰小)
②横田駿介(桜田小)
①斎藤蓮(北辰小)
②横田駿介(桜田小)
①増川亮輔(米沢北部小)
②木村光稀(米沢愛宕小)
③佐藤麻美(崇武館新庄支部)
①石井友喜(米沢南部小)
②田沢大志(新庄小)
③大泉泰士(崇武館新庄支部)
①元木文(本吉海小)
②山形崇武館新庄支部A
③山形崇武館新庄支部B
①星川南(浜田小)
②古瀬未欧(鈴川小)

- 第2回樹水杯ジュニア選手権大会
○平成19年2月25日
◎県総合運動公園総合体育館
- ▼形個人(小学女子5年生)
①佐々木梢(沼田小)
②渡辺友香(神町小)
①古瀬輝(鈴川小)
②山本颯人(西郷小)
①橋本愛香(北辰小)
②仙台丈子(本吉海小)
①斎藤蓮(北辰小)
②横田駿介(桜田小)
①叶内史也(日新小)
②安部文米(米沢南部小)
③叶内史也(崇武館新庄支部)
①斎藤蓮(北辰小)
②横田駿介(桜田小)
①斎藤蓮(北辰小)
②横田駿介(桜田小)
①増川亮輔(米沢北部小)
②木村光稀(米沢愛宕小)
③佐藤麻美(崇武館新庄支部)
①石井友喜(米沢南部小)
②田沢大志(新庄小)
③大泉泰士(崇武館新庄支部)
①元木文(本吉海小)
②山形崇武館新庄支部A
③山形崇武館新庄支部B
①星川南(浜田小)
②古瀬未欧(鈴川小)



▲あたかく迎えていただきました。



▲宿泊は一般の家庭へ民宿。



のじぎく／兵庫国体報告

監督 安達剛

とき／平成18年10月1日(日)～3日(火)
場所／豊岡市市立出石中学校体育館

今までの国体では数多くの優勝、入賞者を出してきたが、今回の国体では入賞者がいなかつたため、不本意な成績に終わった。

国体会場は兵庫県豊岡市出石中学校体育館で開催された。会場は狭くやうにくらい大会だった。宿泊は民泊になり、各自が一般的家庭に一人、又は一人と別れたのでチームとしてはやりにくい面はあったが、民泊なので家庭の雰囲気があり、選手達は良い経験をしたと思う。

試合内容と今後の課題

- 「軽量級」高橋吉将は大学4年生なので学生で参加するは最後なので入賞めざし健闘したが、力及ばず敗退した。これからは、社会人として練習時間を確保すれば、活躍が期待できる。
- 「中量級」安達善也は仕事を五位などで不本意な結果になつたが、国体に向けて勝つ為の練習をすれば、優勝、準優勝、第5位などの入賞の経験があるので、今年の秋田国体では活躍を期待する。
- 「重量級」佐藤義則は初めての国体なので自分の技を

今までの国体では数多くの優勝、入賞者を出してきたが、今回の国体では入賞者がいなかつたため、不本意な成績に終わった。

国体会場は兵庫県豊岡市出石中学校体育館で開催された。会場は狭くやうにくらい大会だった。宿泊は民泊になり、各自が一般的家庭に一人、又は一人と別れたのでチームとしてはやりにくい面はあったが、民泊なので家庭の雰囲気があり、選手達は良い経験をしたと思う。

●「少年男子形」伊藤翔は形の選手として参加したが、今回は団体戦の要員として出場した。スピードはあるが、試合での駆け引き、横の動きなどがこれからの課題である。

●「少年男子」渡辺愛士は東北総体で優勝したときと同じような組手をやれば、もう少し上に進むことができたと思う。4月からは日本大学の空手部で自分から積極的に練習して、早くレギュラーになり、県の代表選手としても活躍して欲しい。

●「少年女子形」大場奈津実

は仕事の都合で練習時間が

少ない中、試合に臨んだが敗

退した。勝つためには基礎

体力パワートレーニングを

取り入れ技術向上をめざし

てほしい。

今回は入賞者がいなかつた

が、秋田国体では最高の選手

を選び、チーム山形として、

練習遠征等を実施し、強い

チームにしたい。強化練習に

積極的な参加を望む。これか

らは、運動能力のある選手を

発掘してトップアスリートに

なるように指導していく、空

手道を通して夢を育んでい

きたい。

指定形講習会 及び 公認段審査会



普及部のメインの事業の一つである講習会については、平成18年度から第2指定形が採用されることを踏まえ、これまで、一般会員を対象とした「指定形講習会」として実施してきましたが、平成18年度は、4月23日(日)に山形市総合スポーツセンター武道館を会場として実施してきました。講師は、飛鳥宗二郎県連会長(教士八段)、工藤清県連理事長(教士七段)で、飛鳥講師からは、和道会の第二指定形であるクーサシャンクーを、工藤講師からは同じく和道会の第一指定形である二ーセーサーをそれぞれ指導していただきました。受講者は、一般が16名、高校5名、中学(有段者)が12名、計39名でした。



午後一時45分から4時までの時間で2つの形を覚えることは大変ですが、両講師の指導方法が分かり易く、受講生も熱心に受講し、大きな成果がありました。講師の飛鳥会長及び工藤理事長並びに参加された方々に御礼申上げます。

今回の講習で、第一指定形

横山
栗野
渡辺
土田
舞友也
(天童高校)
(南陽高校)

(崇武館新庄支部)

高校・一般の部
小出美佑希(天童高校)
菅野真友(天童高校)
浦山美沙希(天童高校)
佐藤邦彦(天童高校)
伊藤功貴(崇武館新庄支部)
伊藤眞太郎(崇武館新庄支部)
伊藤雅人(崇武館新庄支部)
大輔泰士(崇武館新庄支部)

少年の部
坂上愛(崇武館新庄支部)
佐々木梓(崇武館新庄支部)
荒川聰美(崇武館新庄支部)
国分円香(崇武館新庄支部)
小林穂薰(崇武館新庄支部)
佐藤麻美(崇武館新庄支部)
大場美紀(崇武館新庄支部)
芦野智恵(崇武館新庄支部)
海藤佳奈(崇武館新庄支部)
叶内栄也(崇武館新庄支部)
井上大輔(崇武館新庄支部)
大泉泰士(崇武館新庄支部)

18年度から第2指定形が採用されることを踏まえ、これまで、一般会員を対象とした「指定形講習会」として実施してきましたが、平成18年度は、4月23日(日)に山形市総合スポーツセンター武道館を会場として実施してきました。講師は、飛鳥宗二郎県連会長(教士八段)、工藤清県連理事長(教士七段)で、飛鳥講師からは、和道会の第二指定形であるクーサシャンクーを、工藤講師からは同じく和道会の第一指定形である二ーセーサーをそれぞれ指導していただきました。受講者は、一般が16名、高校5名、中学(有段者)が12名、計39名でした。

午後一時45分から4時までの時間で2つの形を覚えることは大変ですが、両講師の指導方法が分かり易く、受講生も熱心に受講し、大きな成果がありました。講師の飛鳥会長及び工藤理事長並びに参加された方々に御礼申上げます。

高校・一般の部
佐々木英彦(崇武館本部)
中村武士(庄潟館)
遠田修(余目空友会)

【公認段収査会】

春季公認段収査会は、5月

初段合格者

14日(日)に、山形県武道館において、秋季公認段収査会は、12月3日(日)に、天童市の県総合運動公園サブアリーナに於いてそれぞれ開催されました。この結果、見事合格された方々(推薦等を含む)は次の通りです。なお、今回からは、二段及び参段の受審者は、第一指定形2つ(外に自由形)2つ(ピンアン(平安)初段~五段、擊碎二及び第一並びにナイハンチ又は鉄騎(初段~二段を除く))の2つの形を演じていただきました。今回より、審査会場に入場できる者は、受審者、審査員及び係員に限定し、保護者等の入場は認めない事といたしました。

平成18年度位審査会合格者

参段合格者

「スキンを磨け。瞬間を見逃すな!」

公正で的確なジャッジを目指し、審判員もがんばっています。

平成18年度より、県公認審

判員のランク付けがスタート

しました。ランク付け導入に

ついては、新ルールに伴い審判

技術が低い審判員も見受けら

れ、大会運営上問題となっ

いました。そこで、県公認審判

員の技術向上と積極的な講習

会参加をはかる事を目的とし

て、今回第一回の開催となりま

した。

講習会では、ルールや考

え方の統一、本番さながらの組手

試合を通して、1つ1つの技の判

断、身体の動き、発声、ジェスチ

ューなどを受講者全員が熱心

に学びました。

※ランク有効期間は1年間。

毎年更新が必要となります。

Bランク
副審、監査ができる

Aランク
主審、副審、監査ができる

ランク付けによる役割は次の通りです。

本番さながら見つめる目は真剣そのもの

統一したジャッジを目指し意見の交換

たくさんの審判員が受講しました。

平成19年度 事業・行事計画



日 程	事 業・行 事	場 所
1 / 25 (木)	県連会計監査審議委員会	県あこや会館
2 / 4 (日)	平成18年度県空手道連盟総会	県スポーツ会館大会議室
2 / 25 (日)	樹氷杯ジュニア空手道選手権大会(第2回)	県総合運動公園アリーナ
3 / 17 (土) ～18 (日)	公認4・5段審査会及び公認地区組手審判審査会 公認地区形審判審査会	仙台市青葉区体育館
3 / 21 (水)	第6回全日本少年少女選手権大会	東京武道館
3 / 25 (日) ～27 (火)	全国高校選抜大会	和歌山県和歌山ピッグホール
3 / 28 (水) ～30 (金)	第1回はまなす杯全国中学生空手道選抜大会	北海道北広島市総合体育館
4 / 21 (土) ～22 (日)	全国形審判員講習会(午前中のみ)・全国組手審判員講習会	東京都江東区スポーツ会館 東京都深川スポーツセンター
4 / 21 (土)	第6回東北学生個人選手権大会	大河原町総合体育館(未定)
4 / 29 (日)	審判員協議会総会・県審判員講習会・講習会	山形市スポーツセンター
5 / 12 (日)	村山地区高校総体	東海大学山形高校
5 / 13 (日)	第36回社会人大会	県武道館
5 / 13 (日)	公認段位審査会(初段～三段)社会人大会終了後	県武道館
5 / 13 (日)	第9回東北中学校選手権大会	宮城県武道館
5 / 20 (日)	山形市大会	山形市スポーツセンター
6 / 3 (日)	県高校総体	山形市スポーツセンター
6 / 10 (日)	全国中学生選手権大会山形県予選会	山形市スポーツセンター
6 / 24 (日)	東北大学総体	東北工業大学
6 / 22 (金) ～24 (日)	東北高校総体	県総合運動公園体育馆
7 / 1 (日)	第25回県ジュニア選手権大会	県総合運動公園アリーナ
7 / 8 (日)	国体・東北総体県予選会	県総合運動公園サブ体育馆
8 / 4 (土)	全日本少年武道錬成会	日本武道館
8 / 5 (日)	第7回全日本少年少女選手権大会	東京武道館
8 / 6 (月) ～8 (水)	全国高校総体	佐賀県市村記念体育馆

日 程	事 業・行 事	場 所
8 / 17 (金) ～19 (日)	第15回全国中学生空手道選手権大会	浦安市総合体育馆
8 / 24 (金) ～26 (日)	第34回東北総合大会	福島県下郷町
9 / 8 (土)	村山地区高校新人戦	天童高校
9 / 8 (土)	1・2級資格審査員研修会	枇杷島スポーツセンター
9 / 9 (日)	公認コーチ・上級コーチ義務講習会	枇杷島スポーツセンター
9 / 14 (金)	第3回全日本障害者空手道競技大会	大津市皇子が丘体育馆
9 / 15 (土) ～17 (月)	日本マスターズ空手道競技会(第8回)	大津市皇子が丘体育馆
9 / 17 (月)	第40回県空手道選手権大会	天童市スポーツセンター
9 / 30 (日) ～10/2 (火)	第62回国民体育大会	秋田県にほか市象潟体育馆
10 / 7 (日)	第15回県少年少女交流大会	天童高校
10 / 14 (月)	第6回東北大学選手権大会・新人戦	宮城県武道館
11 / 4 (日)	県高校総体新人戦	県総合運動公園
11 / 11 (日)	第18回県ジュニア選抜選手権大会 全中選抜県予選会	新庄市東山体育馆
11 / 10 (土) ～11 (日)	公認6段審査会 公認7段審査会	東京武道館 東京武道館
12 / 9 (日)	第35回全日本空手道選手権大会	日本武道館
12 / 16 (日)	県連審判講習会・公認段位審査会(初～三段)	県総合運動公園柔道場
1 / 25 (金) ～27 (日)	東北高校選抜大会	能代市総合体育馆
2 / 24 (日)	樹氷杯ジュニア空手道選手権大会(第3回)	県総合運動公園アリーナ
3 / 25 (火) ～27 (木)	全国高校選抜大会	長野市真島アリーナ
3 / 28 (金)	第2回	北海道北広島市総合体育馆
30 (日)	全国中学生空手道選抜大会	